

みんなの町議会

迎春



目次

- 年頭のあいさつ 2
- 12月定例会の経過 3
- 常任委員会の焦点 4~5
- 一般質問に4名登壇 6~9
- 議会改革の動き 10
- 全員協議会／議員研修報告 11
- 請願・陳情・意見書送付 12
- あれ なんと なったべが！ 13
- 励ましの人・がんばってます 14

No.113

2013年1月1日

未来へはばたけ！（馬場目小学校児童）

2013

あけまして おめでとうございます



年頭のあいさつ



ふるさとに
希望を呼ぶ年に

議長 小林正志

あけましておめでとうございます。
町民の皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられましたことと、心からお慶びを申し上げます。

昨年は、平成19年の天皇皇后両陛下のご訪問に続き、皇太子殿下が本町にお立ち寄りになられ、つつがなくお迎えできましたことは、町史に残る慶事であり、ご協力いただいた皆様に敬意と感謝を申し上げます。

第46回衆議院議員選挙では、自民党が圧勝し政権奪還を果たしました。「新生自民党」として、地方分権改革、道州制、TPPなどの課題に国民の目線に立ち、地方再生のための政治を期待するものです。

また、未曾有の被害となった東日本大震災から1年10ヶ月が経過しました。町では岩手県大槌町の仮設住宅にあきたこまち4、200キロを贈ります。ボランティアで野菜やお米を贈っている方々もおり、復旧、復興が成るまで息の長い支援を続ける必要があります。

誰もが待ち望んでいる湖東病院の建設は、実施設計も決まり2月には着工となります。議会としても地域医療の更なる充実に力を注いでまいります。

全国的に議会改革への議論が高まる中、町民の皆様の声を真摯に受け止め、より「開かれた議会」を目指してまいります。

町民の皆様にとりまして、健康でご多幸あふれる年となりますよう、心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

12月 定例会

議会の経過

12月定例会は12月10日から14日までの5日間の日程で開かれた。

一般質問には4名が登壇。農林業活性化対策、町長の3期目への課題、脳脊髄液減少症について、五小改築計画などを質問した。

提出案件は平成24年度一般会計補正予算案、町定市場設置条例の全部改正案、町営住宅条例の一部改正案など17件。

渡邊町長は行政報告で24年度で閉校する馬場目小学校校舎の今後の活用について「職員による検討会で、起業支援などの機能を持つ複合施設とする案が出ている。今後は地域住民とも意見交換し、運営方法などを検討したい」と述べた。

各常任委員会の審査を行い、最終日は各委員長報告のあと、全議案を全会一致で可決した。陳情8件を採択。委員会提出議案の議会傍聴規則改正案・意見書案を含む9件を可決して閉会した。

最終日の議事日程がすべて終了したところで決議案が提出された。

澤田石亀雄議員外3名から「平成24年度主たる事業（し尿処理施設及び消防庁舎）の早期着工を求める決議案」が提出された。

「異議あり」の声が出て、日程に追加するかどうかが起立採決が行われた。

在席議員数が議長を除き12名で可否同数となったため、議長裁決となり、議長が日程には追加しないこととし、議題とはならなかった。

決議案の日程追加に賛成した議員

石井 光雅・佐藤 慶彦・畑澤 洋子
館岡 隆・工藤 卓美・澤田石亀雄

決議案の日程追加に反対した議員

伊藤 正春・荒川 達雄・佐藤 重信
荒川 正巳・千田 峯夫・石川 交三

採決時に議場にいなかった議員

佐々木仁茂・斎藤 晋・佐藤 成孝

補正のおもなものの

- 農業者体質強化基盤整備促進事業交付金6,395万円。
- 除雪費4,300万円。
- 高齢者世帯等除雪支援事業費359万円。
- 復興支援用報償物品費149万円。



(佐々木仁茂)

総務 常任委員会

内川線、面潟線も 乗合タクシー運行へ



デマンド型タクシー

内川線と面潟線のバス路線が利用者減などの理由から平成25年3月末をもって廃止される。平成25年4月より町が管理運営するデマンド型乗合タクシーを1日5便運行する。**委員** 隣町では無料のバスが運行しているが、わが町はなぜ出来ないのか。小倉町内が富津内線で富田町内が内川線によいか。観光客は使えず各地区間の移動も出来ない。大川地区も含めた町全体の交通システム構築を検討すべきだ。**当局** 内川地区、森山地区で説明会を実施し、地域公共交通協議会を3回開催した。いろいろな意見が出たので地域公共交通協議会で協議を進めていく。全体の見直しは時間が必要である。

電算システム の共同化

平成25年4月1日より県内12町村で秋田県町村電算システム共同事業組合を設立。管理及び運営に関する事務を共同処理することにより行政サービス、事務の軽減、経費の削減につとめる。

委員 組合設立の経費は。何業務あるか。民間に任せてセキュリティは確保されるか。デメリットは。本町はいつから導入するか。

当局 経費は4,000万円ほどかかるが、町村会から3,000万円の寄付金で町村は25年度、26年度7万円となる。52業務について標準化に向け協議している。

セキュリティはデータセンターを設置することで今より安全である。デメリットは標準化に向けての作業が難しいこと。本町は平成26年度導入の予定である。

(石井 光雅)

産業建設 常任委員会

農業集落排水事業 廃止される



再利用される農集排施設

八郎湖が指定湖沼となり排水基準が強化されたことにより、平成24年度末をもって公共下水道に接続し、農業集落排水が廃止されることになった。**委員** 今後の処理場の利活用と、接続に伴う工事の状況はどうなっているのか。**当局** 補助金、起債の返還に伴わない処理場の利活用として建物の上部は黒土、富田、上山内地区の所有物品の収納庫として使用。下部は洗浄して防災備品を格納する。運用までには3年ほどかかる。接続工事の圧送管については12月末で完成。圧送ポンプの設置は3月末で完成の予定である。

教育民生 常任委員会

委員会の焦点

消防庁舎建設協議会 開催時期を巡り紛糾！

補正予算の「消防庁舎建設協議会の委員報酬」の説明において、協議会の開催時期に関して当局の説明に一貫性がなく、町長・副町長に消防庁舎建設に係わる姿勢をただした。改めて委員から厳しい意見が出た。これまで委員会では建設協議会で消防庁舎建設予定地を協議するよう当局に求めてきた。

委員 消防庁舎建設のスケジュールは、建設協議会で協議はしないのか。いつ開くのか。
当局 騒音調査、土地鑑定などの報告書が12月中旬に完成、場所を総合的に判断し、1月中旬に議会全員協議会に示し、2月から3月に建設協議会を開催する。

委員 多くの議員が建設協議会を先だと思っている。
3役会議（議長・副議長・議会運営委員長と町執行部）の話とも違うため、町長、副町長にも説明を求める。
町長 担当課との食い違いについてはお詫びする。調査報告書を先に建設協議会に示し、その後議会全員協議会で協議する。

委員 建設協議会の開催時期は、なぜ説明が逆転し、これほど話が食い違うのか。指導力を疑う。

副町長 1月中旬に開催したい。

委員会では、当局の姿勢に対して苦言を呈した。



しっかりとした協議を

高齢者世帯の雪 寄せに359万 円を計上

健康福祉課では、高齢者世帯の除雪支援をシルバー人材センターに委託する。359万円は、65歳以上の高齢者約1,100世帯の20%、約210世帯20時間分である。そのため利用者負担は20時間を上限として1時間あたり300円となる。

委員からは「間口除雪に関しては建設課と連携すべき。今後の除雪体制のあり方について」を指摘した。

（佐藤 慶彦）

森林資料館の 入館料を無料に

森林資料館の入館者減少にともない、町民に親しまれる施設運営を果たすため、無料化が提案された。

委員 無料化に至る経緯と今後の運営はどうなるのか。

当局 入館料27万円と減少しており森山管理棟と一括管理することにより、6人から4人体制に、資料館は1名になることから人員削減により経常経費の抑制を図る。資料館の展示内容も見直す。



多くの来館者が期待される森林資料館

町定市場条例 全てが改正さ れる

昭和30年に制定された町定市場条例は、時代の流れに即応できなくなり、条例改正案が提案された。

委員 出店者の減少について、定市場組合の協力金の徴収の仕方。町内、町外の出店者が気軽に出店できる体制づくりなどはどうするのか。

当局 朝市の現状に即した条例とし活性化にどのように繋げていくかを考え、定市場の管理運営に関する開設時間、交付金の割合、出店許可関係など必要な事項を追加する。

（佐々木仁茂）



朝市

一般質問

通年型農業実現を目指し 冬季農業推進を！



佐々木仁茂
(21期会)

佐々木 通年型農業推進という観点から、農家の冬の生産拡大や所得確保を目指し冬季農業に取り組むための後押しが出来ないものか。

町長 冬季の施設園芸は、燃料費などコスト面からも採算性のリスクを負うため、なかなかすすまないでいるものの、専門農家や農業法人の取り組みが期待されており、今後は施設導入に係わる県補助事業の継続要望や、指導機関に対してはコスト低減策や栽培技術の指導などを仰ぎながら通年型農業推進を図っていく。

閉校後の馬場目小の活用策は

佐々木 地域密着型の利活用方法として、農林産物加工所として一部施設を活用できないか。

町長 加工施設設置については、必要としている対象農林産物の種類、数量、加工内容など具体的な構想が必要であり、何より運営母体の育成が先決となるのでソフト対策に重点を置き検討していく。



冬季農業に活かしたいビニールハウス

遊休町有地の利活用は

佐々木 森山下旧焼却場跡地を、地元町内会で利用させてもらえないか。また取り付け道路は破損が著しく、大雨の時は県道へ土砂が流れているので対応してもらいたい。

町長 焼却場跡地の利活用は、町の総合発展計画の位置付けとして「緑のふれあいエリア」の一面として森山の魅力や快適性を実感できるエリアとしており、町として具体的な利

活用計画は持っていないが、今後地元町内会などの要望があれば町と協働による利活用の方策について検討したい。また「町道岡本ニラ山線」については、簡易的な補修で対処できる部分については、早急に対処し、大きく修繕が必要な箇所については雪解けを待つて対処したい。

教育現場の災害対応は

佐々木 登下校時の災害が予想される場合や緊急災害発生時の対応は。

教育長 台風や豪雨災害など想定できるものは事前に学校長と教育委員会とで協議し、休校や自宅待機あるいは登校時間を遅らせるなどの措置を講じている。



五小通学路

また突発的な災害については、下校時に教員が児童生徒を引率しての下校や緊急メール配信システムなどを活用して保護者の送迎を依頼している。

佐々木 避難訓練と教職員の災害対応研修は。

教育長 避難訓練は地震、火災などを想定し年に3回から5回実施している。

教職員研修は、避難訓練時に各自の役割分担や心構えなど周知徹底を図り、消火器や自動体外除動器の使用体験など実施している。

新たなイベントを

佐々木 きやどっこまつりを見直し、観光資源を結集させた新たなイベントを。

町長 イベントにはそれぞれ経緯と趣旨があり、また実行委員会の思い入れもある。

「きやどっこまつり」については、毎年実行委員会、その内容を吟味し、協議してもらっている。町としては、提案されたことを踏まえて、より発展的にイベントの内容を吟味し、町内外から足を運んでもらえるイベントを目指し、実行委員会の方々と創意工夫を持って取り組んでいく。

一般質問

自負できる2期8年間の実績は！ 3期目あるとすればその課題は！



館岡 隆
(新世紀クラブ)

館岡 身の回りにもいる？駄目リーダーの「条件」

- ・説明が冗長で、アピール力がない。
- ・自分の利益を追求する。
- ・強い敵の前では自分を出せない。
- ・意志決定がぶれる。
- ・「譲れない大切なもの」がない。

朝日新聞で専門家に聞いた、ダメなリーダーの条件を載せている。6月定例会議会で0円にされた消防庁舎建設事業の対応の悪さ、クリーンセンター改築調査費対応など、町長は意志決定がぶれる。説明にアピール力がない。自負できる2期8年間の実績と3期目やるとしたらその課題は？

町長 協働のまちづくりをスタートした。具体的な事業として、「道路沿線などの清掃活動」や「広場道路などの維持

管理」そして「美化活動」に取り組んだ。五一中の改築や五小の耐震補強工事、朝市ふれあい館の建設。デマンド型乗合タクシーの運行などさまざまな事業をやった。3期目は「総合発展計画」において「人とまちが響き合うところやすらく悠紀の郷五城目」を掲げて施策をする。

農林業に対する支援は

館岡 町の基幹産業の農林業に町単独の政策はあるのか。

町長 「五城目町畑作物生産拡大支援交付金要綱」を制定し出荷、販売した農業者に支援する。新規就農者を受け入れる農業法人等に月額3万円を支援する。森林所有者が低コストで作業を行えるよう林道の整備を進める。今後所得向上を図るため支援策を検討する。



馬場目小学校校舎の利活用は

館岡 庁内だけで検討すると他の施設と同じようなものになる。はば広く会議をおこし、大胆なプランが必要である。例えばNPO法人立ち上げのための拠点としサポート体制をとれるようにすべきである。

町長 基本的に有効活用が図られること・費用対効果・民間能力を活用することの3つをあげて今後検討を進める。

高齢者世帯など除雪支援事業の支払いを 商工会を巻き込んで進めるべき

館岡 町はシルバー人材センターに委託し実施するが、その作業報酬を商工会を通して商品券を活用すべきである。これは町内小売店に経済効果が大きいし、ボランティア精神の醸成にもなる。

町長 今後除雪支援の体制強化を図りながら考える。

下水道、農集排の不納欠損はどうする

館岡 23年度で時効が確定した976万円、24年度はどうなる。その対応策は。

町長 時効の中断努力をしている。不公平をなくすため、「滞納者財産差し押さえ証」を発行して徴収の強化を図る。

ふるさとCM大賞 大賞受賞

館岡 大変喜ばしい事であり朝市振興に活用すべきである。

町長 これまでの朝市に関する全てのCMを活用して振興に活用する。



CM大賞授賞式

一般質問

脳脊髄液減少症の 児童、生徒の実態は

町長 知識の浸透、研修機会の確保に努める



畑澤 洋子
(公明党)

畑澤 脳脊髄液減少症とは、交通事故やスポーツ外傷など、体に強い衝撃を受けたことにより脳脊髄液が漏れて発症し、頭痛・首や背中痛み・腰痛・めまい・耳鳴り・吐気・視力低下・思考力低下・うつ症状・睡眠障害などさまざまな症状が複合的に発症する病気。起立している時に最も症状が強く、横になると楽になる特徴があり、見ためは何ともなさそうなので「精神的なもの」「なまけ病」などと判断されることが多く、患者と家族の苦しみは計り知れない。不登校児童や生徒の実態は、教職員や保護者への周知、啓発をどのように図るか。

町長 学校生活で転倒や運動における外傷など発症の原因となる場合が多い。小中学校の調査結果は症状のある児童



子供達の健全育成はみんなの願い

総合発展計画にこめた 町長のおもいは

町長 さらなる飛躍と発展をめざす

町長 合併協議が不調に終わり「自立計画」「行政改革推進プログラム」の策定が最初に手がけたものだった。五一中の改築、五小の耐震補強工事、朝市ふれあい館の建設、デマンド型乗り合いタクシーの運行などに取り組み達成率は九割を超えた。今後、策定した総合発展計画に基づき、更なる飛躍と発展を目指したい。

建設課長 高崎地域の指定は地域ビジョンの策定の中で、用途地域からはずすことにした。

畑澤 新聞報道で、厳しい経済情勢の中で納付している町民にシヨックを与えた。不信感、不公平感、納得がいかない、行政の努力が足りないと感じ摘されるのは当然だ。不納欠損はあくまでも最終手段であり悪質な未納者には法的措置も含めた対策が必要と考える。納付意欲を失った町民の

不公平感を払拭し納税意欲の高揚に努めるべきだ。これまでの徴収方法に問題はないか、徴収員の採用の検討と町広報に町長の見解、経過、内容、対策を掲載すべきだ。

町長 未納者に対し納入の督促・催告の手続き後、最終的には電話や戸別訪問し分割納付の相談など催促を実施して

下水道事業 不納欠損はなぜ生じたか

いる。23年度から上下水道部門を統合し、料金などの徴収担当職員を増やした。今後の対策協議のため「下水道事業受益者負担金等滞納整理審査会」を設置し徴収を強化したい。いずれ周知の時期や方法につき検討したい。

一般質問

放課後学習支援 平成25年度予算に計上へ！



佐藤 慶彦
(無党派)

佐藤 土曜塾や放課後学習など当町独自の支援を充実させ、児童生徒の学習機会を増やすべきである。

教育長 現在五城目第一中で実施している、平日の放課後学習支援の充実に力を入れ、12月定例会に講師謝礼を計上した。平成25年度予算には講師の確保と内容の充実に必要な予算を計上する。

佐藤 五城目小の改築予定は、小中一貫の考えはあるか。

町長 総合発展計画で平成28年度より改築に着手する計画である。仮称「五城目小学校改築事業検討委員会」を設立し、多方面から検討し方向性を定める。小中一貫校への移行は課題が多く厳しいと考えている。

佐藤 杉沢小中、馬場目小、五城目第一中（小中一貫が今のままでは出来ない構造）となぜこれほど計画性のない建設となったのか。

町長 計画性という点で反省



大川小は来年度35名



現在は、ボランティアによる学習支援

すべきところもあるが総合的に判断した。

佐藤 大川小の統廃合計画はあるか。

町長 平成25年度の大川小の児童数は35名の見込みであり、平成26年度以降も児童数の減少が続く五城目小との統合が望ましいが、保護者などとの協議を重ね方向性を定める。

佐藤 一貫性のある結婚出産子育て支援を。

町長 保健や福祉のサービスは多種多様であり、町民が分かりにくい部分があるものと

考える、出産から子育てに限らず、年代別のサービスを分かりやすく説明した資料を作成する。

企業誘致の状況は

佐藤 企業誘致活動の進捗状況は。

町長 県内製造業や運送業者など、約900社にアンケート調査を実施し、約200社に回答を頂いた。そのうちの町外企業に企業訪問を実施している。

佐藤 日本立地センターへの職員派遣は積立金の活用は可能であり思い切って派遣すべきと考えるが。

町長 派遣される職員の生活もあり25年度の派遣計画はない。しかし、より効果的な対策を検討したい。

佐藤 より効果的な対策をするというのが具体的に何かあるのか？ないならばしっかりと検討すべきである。

まちづくり課長 具体的には考えていない。

まちづくりに関して

佐藤 9月定例会では財務4表を早期に整備し公表するとあったがそれはいつか。

町長 膨大な時間や予算必要となるが整備していく。

佐藤 目安としてはいつか。総務課長 来年めどを立てたい。

佐藤 県との情報交換は十分か。

町長 県との情報交換については洩れなく対応していると認識している。

町長の政治姿勢を問う

佐藤 この2期でやった事、1つこれというものは何か。

町長 協働のまちづくり事業である。

- その他に
- 町の様々なPR方法について
 - ホームページアクセス解析について
 - 姉妹都市の修学旅行の把握・誘致について
 - 町施設の前定に計画性がないことについて
 - 大学との連携について
 - 中学校野球部について
 - 議会事務局の体制について
- 質問しました。

議会改革の動き

議会改革調査特別委員会

委員長 石川 交三

五城目町議会は、地方分権時代に対応すべく、これまで議会内に任意で「活性化調査会」を設置し、議会報告会の実施や一般質問を一問一答方式に改めるなど様々な議会改革に取り組んできた。

平成24年9月定例会で地方自治法第110条に基づいて「五城目町議会改革調査特別委員会」を設置した。

57年ぶりに議会傍聴人取締り規則を全部改めました

傍聴についての規則は昭和30年の制定で、改正なしのままに現在に至っている。時代にそぐわなくなっており、開かれた議会を目指す上からも規則改正は急務であることから12月議会に改正案を提出し、全会一致で可決された。

改正に当たっての留意点は次の通り

- ① 全国町村議会議長会の調査・報告を参照した。(いかに傍聴人を増やすかに力点を置き、取締の文言を残しているところは即刻削除の必要あり) 取締規則を改め、傍聴規則とした。
- ② 傍聴者の「傍聴する権利の尊重」を明記した。
- ③ 地方自治法第130条にある「議長の責務」を明記した。

開かれた議会として「何人も」傍聴できることとし、傍聴者が会議の内容を知る上で必要と思われる文書・資料について「閲覧に努めなければならぬ」と規定した。

議長の責務として、時代の趨勢にあわせて「常に規則を見直して改善に努める」こととした。

議会映像配信システムの導入

10月17日に本会議場で全議員に通知し、映像配信システムのデモンストレーションを実施した。秋田県内でも導入自治体が増えており、時代の要請ともいえる。これまで使用してきた放送設備が老朽化してきており「二度手間」にならないよう当局の考え方も伺い検討した。議員からは導入についての異論はなく、議

長から「実施に向けて予算確保のために当局に申し入れた」との発言があった。

視察研修については結論を見いだせていない。町民の関心の高い議員定数や報酬のあり方など、様々な課題についても今後、集中的・持続的・効率的に審査し鋭意努力を重ねていく。



タッチパネルで
議会議中継の操作

映像配信システムのデモンストレーション

議会議員 全員協議会

10月11日

報告案件

下水道事業受益者負担金・分担金、農業集落排水事業受益者分担金の収入未済額について

収入未済で5年経過し時効が成立したものを年度ごとに不納欠損すべきであったが、納めている方との不公平や最終的に下水へ接続申請があった時に納付してもらおうとの考えから、不納欠損せず滞納繰越として来た。

しかし時効が確定した後の徴収は不可能なことから、収入未済になっているものすべてについて調査の上時効が成立した分について、年度内に不納欠損処分するものである。

報告案件

全国農業担い手サミットinあきた開催に伴う行啓対応について

11月22日

協議案件

高齢者世帯等に対する除雪支援について

自力で除雪することが困難であると認められる高齢者世帯等に対し除

雪に係る費用を助成することにより、高齢者世帯等が安心して生活できるよう支援するものである。除雪の範囲は住宅の玄関から道路までシルバークリスタールに委託し利用者負担は1時間当たり300円となり、20時間を上限とするものである。期間は12月から3月まで。

その他の協議案件

商工振興課関係条例改正について

報告案件

(1) 下水道事業受益者負担金・分担金・農業集落排水事業受益者分担金の収入未済額（時効成立分）について

(2) 地域主権改革一括法について

(3) 農業集落排水事業の廃止及び地域主権改革一括法に伴う関係条例の改正について

(4) 大槌町への支援について



除雪作業で苦勞する高齢者

(石井 光雅)

議員研修

林活連盟でアスクウッド視察



アスクウッドは日本一の蓄積量を

平成24年11月16日(金)五城目町議会 森林・林業・林産業活性化推進議員連盟 (会長 工藤卓美) は、秋田市河辺の秋田スギ大型製材工場アスクウッド(秋田製材協同組合)を視察した。

誇る秋田スギの需要拡大、ブランド化を図る目的で最新の高性能設備機械を導入し、高品質、低価格、量産性、安定供給が可能となり、全国の市場に製材品を供給出来るとの事であった。秋田県林業再生の起爆剤として期待する。

参加者

佐々木仁茂、石井光雅、佐藤慶彦、伊藤正春、荒川達雄、佐藤重信、館岡隆、工藤卓美、澤田石亀雄、議会事務局 工藤成子

道州制問題研修会 (H24.11.16)

秋田県市町村会館において、秋田県町村会主催の「道州制問題研修会」が開催された。参加者は、各町村長、町村議会議員、県町村職員あわせて140名。

「何故、道州制なのか」

東京大学名誉教授 大森 彌^{わたる}氏が講演

『道州制基本法案』がもし成立すれば、町村にとって存亡にかかわる危機が差し迫っていることを意味している。

現在の道州制議論は、国民的な議論がない中で、道州制の下での町村の位置づけや道州制が町村や町村住民にどのような影響をもたらすのか明らかにされないまま、あたかも今日の経済社会の閉塞感を打破しようとするような変革の期待感だけが先行していると言わざるをえない。」

道州制によって地域間格差は是非されるのか、税財政はどうなるのか、町村自治を衰退させ国を弱体化させることになるかと訴えた。



参加者

小林正志、石川交三、齋藤晋、議会事務局 伊藤直勝

請願 陳情

陳情



医療現場で働く看護師

採択
◆地域経済活性化と雇用対策強化のための地方財政の充実に求める意見書採択に関する陳情書

連立秋田男鹿潟上南秋地区連絡会
議長 渡部 仁史

採択
◆オスプレイの配備と秋田県上空での飛行撤回を求める陳情書

秋田県春闘懇談会
代表委員 中村 秀也
秋田県労働組合総連合会
議長 佐々木 章

採択
◆消費税増税に関する意見書の提出について

秋田県商工団体連合会
会長 小玉 正憲

採択
◆安全・安心の医療・介護実現のための夜勤改善・大幅増員を求める陳情書

秋田県医療労働組合連合会
執行委員長 中村 秀也

採択
◆介護職員処遇改善加算の継続、拡充を求める陳情書

秋田県医療労働組合連合会
執行委員長 中村 秀也

採択
◆「教育費無償化」の前進をもとめる陳情書

秋田県ゆきとどいた教育をすすめる会
会長 沼田 敏明

採択
◆「ゆきとどいた教育」の前進をもとめる陳情書

秋田県ゆきとどいた教育をすすめる会
会長 沼田 敏明

採択
◆国に、生活保護基準の引き下げをしないことを求める陳情書

秋田県社会保障推進協議会
会長 渡辺 淳

継続審査
◆消防署移転建設地誘致に係る陳情書

富津内地区町内会長会
会長 原田 行雄

意見書送付

議決した意見書を各関係機関に提出しました。

地域経済活性化と雇用対策強化のための地方財政の充実に求める意見書

提案理由
地域経済の活性化や雇用対策の強化など増大する財政需要に対応できる財源を地方自治体が安定的に確保できるところを求める。

提出先
内閣総理大臣 野田 佳彦
総務大臣 樽床 伸二
財務大臣 城島 光力
参議院議長 平田 健二

オスプレイの配備と秋田県上空での飛行撤回を求める意見書

提案理由
オスプレイの普天間配備と秋田県上空での訓練飛行をただちに撤回することを求める。

提出先
内閣総理大臣 野田 佳彦

消費増税の中止を求める意見書

提案理由
現在の経済状況下で消費税増税を行えば、国民・中小零

細業者の生活と営業は破綻してしまうことから、消費税増税の中止を求める。

安全・安心の医療・介護実現のための夜勤改善・大幅増員を求める意見書

提案理由
医療・社会保障予算を先進国並みに増やし、持続可能な医療提供体制、安全・安心の医療・介護を実現するための看護師などの大幅増員・夜勤改善を求める。

提出先
内閣総理大臣 野田 佳彦
総務大臣 樽床 伸二
財務大臣 城島 光力

介護職員処遇改善加算の継続、拡充を求める意見書

提案理由
安全・安心の医療・介護実現のための看護師などの大幅増員・夜勤改善を求める。

提出先
内閣総理大臣 野田 佳彦
厚生労働大臣 三井 辨雄
財務大臣 城島 光力
文部科学大臣 田中真紀子
総務大臣 樽床 伸二
秋田県知事 佐竹 敬久

生活保護基準の引き下げをしないことを求める意見書

提案理由
国民生活の最低保護基準の土台をなす生活保護制度は、国の責任で補償することを求める。

提出先
内閣総理大臣 野田 佳彦
厚生労働大臣 三井 辨雄
財務大臣 城島 光力
文部科学大臣 田中真紀子
総務大臣 樽床 伸二
秋田県知事 佐竹 敬久

「教育費無償化」の前進を求める意見書

提案理由
公私ともに高校・大学の無償化を前進させ、社会全体で高校生・大学生の学びを支えることを求める。

提出先
内閣総理大臣 野田 佳彦
文部科学大臣 田中真紀子
総務大臣 樽床 伸二
財務大臣 城島 光力
参議院議長 平田 健二

「ゆきとどいた教育」の前進を求める意見書

提案理由
地方に負担を押し付けるのではなく、国が責任を持って教育予算を増やし、全国の教育条件整備を求める。

提出先
内閣総理大臣 野田 佳彦
文部科学大臣 田中真紀子
総務大臣 樽床 伸二
財務大臣 城島 光力
参議院議長 平田 健二

生活保護基準の引き下げをしないことを求める意見書

提案理由
国民生活の最低保護基準の土台をなす生活保護制度は、国の責任で補償することを求める。



あれ

なんとなくだったべが!



平成23年12月定例会一般質問より

問

老朽化した西野橋の改修を。



老朽化した西野橋

答

優先順位を決めて設計、平成25年度より工事着手する。

現在

「西野橋橋梁補修補強詳細実施設計」を発注し、業者委託中である。平成25年度に床板工・下部工・塗装工を実施予定で26年度に地覆工・高欄工・舗装工を実施し、2カ年で完成予定である。

問

空き家対策を進めよう。

答

全町で343戸が空き家となっている。他市町村の条例を参考に対策する必要がある。

現在

空き家は10月1日現在、401戸と把握している。所有者責任で解体・撤去するのが原則で、行政がどこまで対応するかは難しい問題を含んでいるため現在検討中である。防犯



空き家対策を

上など近隣住民に迷惑を及ぼす危険がある場合は所有者への指導など対応している。

問

クレアチニン検査で人工透析患者を減らそう。

答

実施に向け準備中。尼崎市を参考に予防に努め、市民の健康増進を図っていく。

現在

今年度から、早朝検診の検査項目に腎機能(クレアチニン検査、尿酸値検査)を追加し、腎臓病の予防に努めている。

問

かやぶき民家保存対策はなにか。

答

北ノ又集落の原風景を残すため4軒の現状維持は急務であり、所有者任せでなく、行政として積極的に保存に努めるべきと考える。

現在

貴重な観光資源でもあり、映画「釣りキチ三平」のロケ地となつ

た「三平の家」を平成20年から一般公開し、管理人により空家状態とすることなく1棟ではあるが茅葺民家保存を図っている。また茅葺屋根補修の際の負担軽減に努めている。今後はより積極的な保存施策を検討したい。



北ノ又



介護センター花☆花

介護福祉士 椎名 悦子さん
(富田)



●楽しいこと、大変なことは。

椎名 訪問ヘルパーに行く

と「来てけた。待ってだよ」と言ってお貰えるとうれしいです。とてもやりがいがあります。時間に遅れて行くと叱られたりしますが、一生懸命に仕事をし話しかけたりするうちに、機嫌をなおしてくれらると、心からうれしくなります。

●町政や議会へのご意見はありませんか。

椎名 4点ほどあります。

1. 福祉の情報を各施設どこも同じに提供できるようにしてほしい。
 2. 紙オムツへの補助がなくなるなど大変だと、利用者が心配しています。
 3. 通院車に規制があり、施設内の車が使えなくて、通院院内介助の時困っています。
 4. ヘルパーの地位を向上させてほしい。
- 今シリーズより「励ましのひと」に変更しました。
今後、ご愛読よろしくお願ひします。

(取材：畑澤洋子)

がんばってます



馬場目小6年
伊藤 美千翔さん
(町 村)

今年度で馬場目小学校は閉校になります。私は、馬場目小学校最後の卒業生です。6年生は全員で4人と少ないですが、みんな力を合わせてがんばっています。

現在の校舎は、平成12年にできました。今年で12年になります。私たちは、校舎と同一年です。私は、上棟式のおちまきの時に、お母さんのお腹の中で参加したので、ずっと一緒に歩んできた感じがします。だから、たくさんの思い出があるこの学校がなくなるのは、とても悲しいです。

だけど、先日行われた閉

校式でたくさんの方々から馬場目小学校での思い出を振り返り私たちの呼びかけや、歌に感激し、涙を流してくれました。私たちは、この馬場目小学校が最高の状態で終わることができるようがんばることが、6年生としての役目だと思います。馬場目小学校で学んできた、たくさんのことを生かして中学校でもがんばっていききたいと思ひます。

そして、私の将来の夢は建築家と機械系の仕事にすることです。そのために今は、目の前にあることに対して真剣に取り組んでいきたいと考えています。

閉校してしまっても、私は馬場目小学校の卒業生であり、馬場目小学校は永遠に私の母校です。

(取材：佐藤慶彦)

編集 後記



あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

国会では新政権がスタートし、今後に期待したい。昨年当町議会では春に改選があった。「五城目町議会改革調査特別委員会」を設置し、57年ぶりに議会傍聴人規則を改正するなど開かれた議会へ向け邁進する一年となった。今年も議会映像配信システムの導入や議会基本条例の設置など検討すべき課題が山積している。

今回で我々新人議員も4回目の広報編集であるが、先輩方の助言がまだまだ必要である。編集委員としてより一層精進し、町民に分かりやすい広報を作り上げていきたい。

佐藤 慶彦 記